

講義コード	11C0127600	授業形態	講義	事前登録の有無	なし	担当教員	外木 好美	開講期	第2期																
科目名	証券市場論2																								
履修前提条件						備考																			
授業の目的	家計が、所得を消費と貯蓄にどう配分するのか、そして資産形成する際に安全資産と危険資産の割合をどう決定するのかを、ミクロ経済理論（消費者の効用最大化問題）に基づいて理解することを目的とします。証券市場論1で、「金融資産のリターンとリスク」として直観的に学んだ内容について、その理論的背景を1つ1つ追っていきます。ミクロ経済学と統計基礎を履修済みであることが、望ましいです。																								
到達目標	本講義の目標は、次の通りです。まず、①家計の所得と消費の流れや貯蓄と資産残高の推移をグラフにし、資産形成の在り方を図示できるようになります。②消費者の第2期間モデルから、家計がどのように消費と貯蓄の配分を決定しているのかを理解しましょう。③不確実性に対する危険回避行動とリスク・プレミアムについて知りましょう。④資産の組み合わせ（ポートフォリオ）によってリスク分散するメカニズムを理解しましょう。⑤家計の資産形成では、各々のリスク回避度に合わせて安全資産と危険資産の割合が決まることを理解しましょう。⑥CAPMが何か知りましょう。																								
授業外学修内容・授業外学修時間数	数式や図が多く出てきます。授業後、数式や図をひとつひとつ丁寧に書きなおし、理解の定着を図りましょう。その際、単に写すのではなく、なぜその計算になるのか、なぜその図になるのかも一緒に考えましょう。 授業外学修は60時間以上、行うこと。																								
授業計画	<table border="0"> <tr> <td>【第1回】 ガイダンス</td> <td>【第9回】 平均-分散アプローチ、資産の組み合わせとリスクの分散（2つの資産）</td> </tr> <tr> <td>【第2回】 消費者の効用最大化行動の復習（1）</td> <td>【第10回】 機械曲線（2つの資産、多数の資産）</td> </tr> <tr> <td>【第3回】 消費者の効用最大化行動の復習（2）</td> <td>【第11回】 マルコヴィッツの資産選択理論</td> </tr> <tr> <td>【第4回】 ライフサイクル仮説</td> <td>【第12回】 資本市場線と分離定理</td> </tr> <tr> <td>【第5回】 消費者の効用最大化行動-第2期間モデル（1）</td> <td>【第13回】 安全資産と危険資産の組み合わせ</td> </tr> <tr> <td>【第6回】 消費者の効用最大化行動-利子率の変化と貯蓄（2）</td> <td>【第14回】 CAPM (Capital Asset Pricing Model)</td> </tr> <tr> <td>【第7回】 統計基礎の復習（期待値、分散）</td> <td>【第15回】 まとめ</td> </tr> <tr> <td>【第8回】 サンクトペテルブルクのパラドックスと期待効用仮説</td> <td></td> </tr> </table>									【第1回】 ガイダンス	【第9回】 平均-分散アプローチ、資産の組み合わせとリスクの分散（2つの資産）	【第2回】 消費者の効用最大化行動の復習（1）	【第10回】 機械曲線（2つの資産、多数の資産）	【第3回】 消費者の効用最大化行動の復習（2）	【第11回】 マルコヴィッツの資産選択理論	【第4回】 ライフサイクル仮説	【第12回】 資本市場線と分離定理	【第5回】 消費者の効用最大化行動-第2期間モデル（1）	【第13回】 安全資産と危険資産の組み合わせ	【第6回】 消費者の効用最大化行動-利子率の変化と貯蓄（2）	【第14回】 CAPM (Capital Asset Pricing Model)	【第7回】 統計基礎の復習（期待値、分散）	【第15回】 まとめ	【第8回】 サンクトペテルブルクのパラドックスと期待効用仮説	
【第1回】 ガイダンス	【第9回】 平均-分散アプローチ、資産の組み合わせとリスクの分散（2つの資産）																								
【第2回】 消費者の効用最大化行動の復習（1）	【第10回】 機械曲線（2つの資産、多数の資産）																								
【第3回】 消費者の効用最大化行動の復習（2）	【第11回】 マルコヴィッツの資産選択理論																								
【第4回】 ライフサイクル仮説	【第12回】 資本市場線と分離定理																								
【第5回】 消費者の効用最大化行動-第2期間モデル（1）	【第13回】 安全資産と危険資産の組み合わせ																								
【第6回】 消費者の効用最大化行動-利子率の変化と貯蓄（2）	【第14回】 CAPM (Capital Asset Pricing Model)																								
【第7回】 統計基礎の復習（期待値、分散）	【第15回】 まとめ																								
【第8回】 サンクトペテルブルクのパラドックスと期待効用仮説																									
成績評価の方法	平常点、中間レポートと期末試験の合計で評価します。																								
フィードバックの内容	数式や図を多く扱います。皆さんが、中間レポートや期末試験（事前公開）の準備ができるよう、相談を受け付けます。数式になれていないために「解答の書き方がわからない」ケースが多いです。算数・数学のレベルは学生それぞれで異なりますので、個々に解答の書き方を指導します。基本的な事からでも結構ですので、ぜひ、声をかけてください。																								
教科書	『金融論——市場と経済政策の有効性』福田 慎一（有斐閣）2013																								
指定図書																									
参考書																									
教員からのお知らせ	算数、数学、図、数式等でわからないことがあったら、簡単なことでも、声をかけてください。																								
オフィスアワー	本授業に関する質問・相談は、学部学科にて定めるオフィスアワーにて受け付けます。																								
その他																									